

## II. 想定される被害

### II-1. 被害想定的前提条件

#### 1. 想定するシーン

時間帯によって人々の滞留特性は大きく異なるため、地震の発生時刻が変わると人的被害の発生する様相も変化する。

また、時間帯や季節によって火気器具等の使用状況が異なるため、火災の出火件数も変化すると考えられる。このため、本調査では、想定される被害が異なる3種類の特徴的なシーン（季節・時刻）を設定する。

図表 想定するシーン(季節・時刻)

シーン設定		想定される被害の特徴
基本シーン	①冬、朝 5 時	<ul style="list-style-type: none"><li>兵庫県南部地震と同じ発生時間帯</li><li>多くの人々が自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による圧死者が発生する危険性が高い。</li><li>オフィスや繁華街の屋内外滞留者や、鉄道・道路利用者は少ない。</li></ul>
	②冬、昼 12 時	<ul style="list-style-type: none"><li>オフィス、繁華街、映画館、テーマパーク等に多数の滞留者が集中しており、<u>店舗等の倒壊、落下物等による被害拡大の危険性が高い。</u></li><li>住宅内滞留者数は、1日の中で最も少なく、老朽木造家屋の倒壊による死者数はシーン①と比較して少ない。</li></ul>
	③冬、夕 18 時	<ul style="list-style-type: none"><li><u>火気器具利用が最も多いと考えられる時間帯</u>で、これらを原因とする出火数が最も多くなるケース</li><li>オフィスや繁華街周辺、ターミナル駅では、帰宅、飲食のため多数の人が滞留</li><li><u>ビル倒壊や落下物等により被災する危険性が高い。</u></li><li><u>鉄道、道路もほぼラッシュ時に近い状況</u>で人的被害や交通機能支障による影響拡大の危険性が高い。</li></ul>

## 2. 想定対象項目

想定項目		想定内容
地震動		震度分布、長周期地震動、地震動継続時間
地盤		液状化危険度 (P <sub>L</sub> 値) 急傾斜地崩壊危険箇所
津波		津波高 浸水深
建物		ゆれによる建物被害 (全壊・半壊) 液状化による建物被害 (全壊・半壊) 急傾斜地崩壊による建物被害 (全壊・半壊) 火災による建物被害 (出火、焼失) 津波による建物被害 (全壊・半壊)
人的被害		建物全壊 (ゆれ・液状化) による死傷者数 急傾斜地崩壊による死傷者数 火災被害による死傷者数 津波浸水による死者数 屋内収容物の転倒・落下等による負傷者数 ブロック塀等の転倒による死傷者数 落下物等による死傷者数
交通	道路	橋梁・橋脚の被害 細街路の閉塞 緊急交通路の渋滞区間延長
	鉄道	橋梁・高架橋橋脚の被害
	港湾・空港	港湾施設被害 ☆空港施設被害
ライフライン		ライフライン (電力、通信、ガス、上水道、下水道) の被害 ☆各ライフラインの復旧
避難者		発災後の避難者数
帰宅困難者		帰宅困難者の人数 主要なターミナル駅別人数
その他		エレベーター閉じ込め台数 災害時要援護者 自力脱出困難者 震災廃棄物 ☆地下街の被災 ☆長周期地震動による被害
☆複合災害シナリオ		

☆は定性的評価